"地域に根ざした顔の見える連合運動"を目指そう 「いっぱい」 「いっぱいっぱい」 「いっぱい」 「いっぱい」 「いっぱい」 「いっぱい」 「いっぱい」

第15号

発行責任者 塩入 高志

〒856-0825 大村市西三城町 9-1 大村市勤労者センター内 TEL・FAX 0957-48-6045

X&X&X&X&X&X

連合2016 平和ナガサキ集会

- 1) 日 時 8月8日(土) 15:30~18:00 2) 場 所 県立総合体育館
- 3) 参加者 全体 3,294名 ※地協参加者72名(大東67名・壱岐ブロック3名・対馬ブロック2名)



主催者挨拶する神津会長

7万4千人余りの尊い命が一瞬にして奪われたあの日から71年を迎える。1945年8月9日、原子爆弾が投下されて、長崎は一瞬にして焼け野原になった。今もなお放射能障害に苦しんでいる人たちがいる。そして、今日になってもまだ核兵器は世界中に1万5700発も存在し、私たちは核兵器の脅威から解放されていない。

本年5月、オバマ大統領が、現職のアメリカ大統領として初めて、人類最初の原爆被爆地である広島を訪問した。核兵器のない世界を目指すことを強調してきたオバマ大統領が広島の地に足を踏み入れたことで、核兵器廃

絶に向けた強い意志を世界中に示したことを評価する。 オバマ大統領には、人類最後の原爆被爆地であるここ長崎にも訪問し、この惨劇を三たび繰り返さない決意をさらに示すことを求める。そして、各国にリーダーが広島・長崎を訪れ、被爆の実相に触れる機会を持つことで、核兵器廃絶に向けて真摯に行動することを強く求める。

2016年8月8日 連合2016平和ナガサキ集会



参加した大東・壱岐・対馬地協の仲間



波佐見町町議会議員選挙予定候補者 「横山 聖代(よこやま まさよ)」氏

(無所属・新人・36歳) の推薦決定

波佐見町議選日程 告示日 2016年10月18日 (火) 投票日 2016年10月23日 (日)

※9月2日、連合長崎、大東壱岐対馬地協、横山聖代氏の3者で政策協定を締結しました。

地協として、町議選必勝に向けて全力を投入し、波佐見町での初めての議席を何としても勝ち取りたい。現在、地元でのあいさつ回り、組合へのあいさつ行動等精力的に頑張っています。

今後、地協傘下の組合員の皆さんの波佐見町の友人知人の紹介活動等具体的な取り組みによるご支援をお願いします。

「2016 平和行動 in 沖縄」に参加して



戦争で一番犠牲になるのは子どもです。

自分で考える力の少ない、洗脳しやすい子どもを、教育を武器にして洗脳する。そして、戦争の現場で真っ先に犠牲になるのも子どもなのです。

今まで何度か沖縄を訪れたことはありましたが、いつ も明るく観光地としての沖縄しか訪れたことしかありま せんでした。

ひめゆりの塔や資料館を訪れたことはあっても、実際の戦地に触れ考えることはありませんでした。教科書や授業で「唯一住民をも巻き込んだ地上戦があった場所」と言われても、それがどういうことなのか、全然わかっていませんでした。どこか遠い昔の出来事で、自分には関係のないことだと思っていました。

しかし、今回の平和行動に参加して、日米両軍の間で 沖縄戦がどのように展開し、その狭間で住民がどのよう な惨劇に巻き込まれていったのかを深く理解することが できました。どこか「他人事」としか考えていなかった 沖縄戦のことを「自分事」として考えるきっかけとなり ました。

沖縄数多く存在する「ガマ(鍾乳洞)」。戦争時には住 民の避難場所となっていましたが、その中で行われた悲 惨な出来事が強く心に残りました。

米軍の上陸によって住民の緊張が高まり、避難していた多くの住民が集団自決を行うのです。自分から死を望む者もいましたが、多くの母親たちは我が子を殺していって、自らの命も絶っていったのです。

また日本兵と住民が共に避難する「ガマ」では赤ん坊 の泣き声がアメリカ兵に見つかってしまうのではないか

大村市職員組合副委員長 福 江 都 志

という恐怖心を煽り、日本兵により幼児虐殺も行われた そうです。

そして、沖縄戦では本来なら18歳以下で徴兵義務のないはずの子どもたちも多数動員されたのです。まわりの大人と変わらない扱いを受け、その多くが戦場で亡くなっていったのです。もし私が自分の子どもと、その「ガマ」の中にいたら、どうしていただろう。本来なら守るべき者の命を自らが絶つ、という行動に出ることができるのだろうか。ただその時の日本には軍国主義と強制統一された空気が流れており、誰もその流れに逆らった主義や主張ができなかったと思います。自分がもしその場にいたなら、責任を果たすべくその流れにのってしまい、我が子をこの手で殺め、集団自決という選択を行っていたでしょう。

なぜ、戦争を止めることができなかったのか。戦争を 止めると言えない空気が流れていたからではないでしょ うか。

しかし、どのような空気が流れていても、戦争を諸手 を挙げて喜ぶ人はいないはずです。

本当に大切なものは何なのか。大事にしなければならないものは何なのか。正しい情報が大切にされ、それをもとに大事なものを守るために行動する勇気、が必要だと思います。これだけ情報過多の世の中で、本当に正しい情報を掴むのは大変だと思います。

しかしながら、本当に大事なものを大事にするために はどうすべきか、と考えれば自ずと答えは出てくるはず です。

米軍の基地問題や安保法制もこのままでいいのか。正 しい選択をするためにもっともっと過去を知り、学び続 け、より理解を深めていきたいと思いました。三日間、 ありがとうございました。



「平和行動 in 広島」に参加して

4年ぶりに参加させていただきたが、今回も暑い広島 でした。

行動内容は、「資料館の見学、被爆電車で回る平和学 習で回る平和学習、ピースウォーク、平和集会ドーム前 での慰霊式、平和の鐘の打鐘」などでした。

4年前の記憶が多少残っていて、そういえば前回もここを訪れたな行動をしていましたが、初めて受けたワイヤレスイヤホンによるピースウォークの説明は聞きやすくてよかった。広島でも長崎でも資料館の被爆者の写真は、見るに堪えれないので横目で見ながら通り過ぎていきました。

戦後71年がたち、仕方ないことではありますが、被 爆者や戦争体験者の数は減っています。原爆の悲惨さは もちろんのこと戦争の愚かさを後世に伝えるべく、様々 な取り組みがなされていますが、資料館や平和公園に多 くの人が訪れているのを見ていると、たとえ年1回でも いいから、こうゆう場所に足を運び平和について考えて もらえばとと思います。 壱岐ブロック議長 赤木 修



「平和の鐘」の前で

皆さんも、機会があれば連合の平和行動に参加してみてください。

最後に、広島行動及び平和キャラバンに参加された皆 さん、そして連合広島の皆さん大変お疲れました。

「平和行動 in 根室」に参加して

「これはこれ、それはそれ」

連動の平和4行動に「北方領土返還」……? 沖縄の 「米軍基地縮小」や広島・長崎での「核兵器廃絶」のた めの運動はすぐ平和行動に結びつくのですが、「北方領 土返還 | がなぜ平和行動なのかよく理解しないまま、私 は平和行動に参加しました。平和行動 in 根室では、北方 領土の歴史を知り、択捉島出身者の思い聞き、そして北 方領土の近さを感じることが出来ました。これまで私が 北方領土返還運動として行ってきたことといえば、よく 知りもしないで、戦後70年も経つんだから早く返せよ、 という思いで返還に関する署名をすることぐらいでした。 当然、地元民も故郷を不法占拠され、強制的に島を追い 出されたわけですから、同じ思いで、故郷を奪われた憎 しみで領土返還活動を行っていると思っていました。し かし、セミナーで、北方領土がロシアに不法占拠されて 70年を超え、そこで生まれ、そこを故郷として生活し ているロシア人がおり、そこが自分の国が不法占拠した 島であることを知らない人もいる。ただ、「返せ、返 せ」ではなく、そこに住んでいるロシアの人が自分達と 同じようなつらい思いをしないように、平和的に返還し てもらうにはどのようにしたらいいかを考えていかなけ ればならない。そのためにもそこに住む方々との交流も しっかり行っていかなければならない。「それ(返還活 動)はそれ、これ(交流活動)はこれ、恨み辛みだけで

対馬ブロック事務局長 大塔克彦



はダメ。返してもらうだけではない。」このような鈴木さん(択捉島出身者)の話を聞き、自分の浅はかな考えに恥ずかしさを感じましたし、北方領土返還運動が連合の平和4行動の1つに位置づけられている意味を理解することができました。今後は、1日も早く平和的な方法で北方領土が返還され、ロシアとの平和条約が締結されることを願うとともに、少しでも周りの皆さんに北方領土の問題を知っていただくような活動をしていきたいいと思います。

このような貴重な体験・学習をさせていただきありがとうございました。

第16次長崎県労働者福祉協議会海外視察研修報告

連合長崎大東・壱岐・対馬地域協議会 副議長 川 田 進

カンボジアに着いて最初に驚いたことが交通事情であった。 バイクの数が多く、交通規則もほぼ守られていない。そのため、 中心部では常に渋滞が発生していた。1台のバイクに5人乗車、 中央車線を越え対向車線からの追い越し等、日本では考えられ ない状況ばかりであった。

2日目には、本研修で1番印象に残った「くっくま孤児院」を視察した。孤児院、しかも日本語が通じない状況の中、子ども達にどのように接すればいいか考えていたが、杞憂であった。施設に入るとすぐに満面の笑みを浮かべた子どもたちから日本語で「おはようございます」と明るい元気な挨拶で歓迎を受け、積極的に話しかけてきてくれたからだ。カンボジアの民族舞踊等を披露する際も常に純粋な笑顔を絶やさず素晴らしい踊りを披露してくれた。施設には25人の子ども達が生活していたが、全員が日本語で自己紹介をして将来の夢を語ってくれた。男の子はサッカー選手、女の子はモデルや医者になりたい子が多く、将来がとても楽しみである。

その後、キリングフィールド、トゥール・スレンというポル・ポト政権下での大量虐殺、拷問が行われた施設を視察したが、子どもたちの笑顔を見た後ということもあり、胸が痛んだ。しかもトゥール・スレンは元々学校だった建物を刑務所として利用しているという事実に言葉もない。また、大量虐殺で多くの知識人や罪なき方々が犠牲に遭われてから、まだ40年も経っていないということも驚きであった。

3日目には、アンコールワット、アンコールトム、タ・プローム寺院といったクメール王国時代の遺跡を視察した。カンボジア国旗にも描かれているアンコールワットは、その壮大さ、幽玄さに圧倒された。

4日目にはトンレサップ湖での水上生活の様子を船上から視察した。水上には学校や教会、遊技場もあり、多くの人が生活する様子を視察することができたが、船上で地図を見て、視察した場所がほんの一部でしかない

今回の視察では、連合長崎の各地域協議会で「アジア・アフリカ支援米」として田植え、稲刈りを行っており、その支援先を視察するということが1番の目的であった。特にくっくま孤児院では、規模も小さく、日本からの支援にとても感謝していることがわかり、今後も支援を続けていくとともに、友人・知人にも現状を伝え、支援に協力していただくよう働きかけることが今後の私の使命だと思った。子ども達の夢を実現させる手

全労済の 住まいる共済 824848 88884848

火災はもちろん、台風・地震など 自然災害にも備えられる 「住まいと家財の保障」。



全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済 事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らし をめざしています。出資金をお支払いいただいて組合 員になれば、各種共済をご利用いただけます。



助けと、「子ども達の母親になる」と決意してカンボジアに渡ったスタッフのためにも、使命を果たしていきたい。また、「水道水が飲める」、「おいしい料理がいつでも安全に食べることができる」といった、日本では当たり前にできている日常に感謝することを忘れず今後は生活していきたい。





お知らせ

連合長崎大東・壱岐・対馬地協 第6回 定 期 総 会

◆ 日 時:2016年11月12日(土)

15時~

◆場 所:大村市勤労者センター

2階講堂

ご意見を Eメール: tikyoshioiri@globe.ocn.ne.jp



九州ろうきんは、労働金庫法に基づき設立された勤労者のための福祉金融機関です。

九州労働金庫大村支店 屆:0957-53-2300

